

地域が変わる—— 地域活性化の現場



守山

◎守山市シルバー人材センター ▶ <http://www.sjc.ne.jp/moriyama/>

菜の花、アジサイ、ヒマワリ…。 花でにぎわいを呼ぶ新しい名所に シルバー人材センターの地道な努力が実を結んだ。

現役時代に磨いた技能を生かして、「社会のために働きたい」と望む高齢者に働く機会を提供するシルバー人材センター。その存在感は、人口構造の変化が進む社会の中で大きくなってきている。なかでも興味深い事例を守山で見つけた。冬には菜の花、夏にはヒマワリが敷地を埋め尽くす「第一なぎさ公園」と、世界のアジサイが咲き誇る「もりやま芦刈園」。花でにぎわいを招く2つの名所で、高齢者の力が果たす役割を見てみよう。

12,000本の菜の花景色は 守山の冬の風物詩だ

菜の花といえば春の風物詩だが、まだ冬の寒さが厳しい1月、守山市の北端の琵琶湖畔にある「第一なぎさ公園」の菜の花畑は満開を迎えている。こ



比良山を背景に、1月中旬から12,000本の菜の花が咲き誇る「第一なぎさ公園」

こには冬咲きの菜の花が12,000本も植えられていて、1月中旬から3月まで訪れる人を楽しませている。鮮やかな黄金色の花が約4,000平方メートルの敷地いっぱいに咲き競う情景は、守山が誇る新名所だ。天気の良い日には雪の残る比良山の姿が対岸に浮かび、一枚の

絵のような光景に目を奪われる。開花期には大勢の見物客が訪れ、周辺地域にはにぎわいに包まれる。遠方から訪れる写真愛好家も多く、守山の地名度向上にひと役買っている。

惜しみなく手間暇をかける人材が 第一なぎさ公園に花を咲かせる

第一なぎさ公園を市民の憩いの場にしたとの市の意向を受けて、1998年から毎年菜の花を植えているのは、公園を管理している「守山市シルバー人材センター」だ。この公園はもともと埋立地で土の保水力が弱く、石も雑草も多い土地で、苦勞も多かったという。事務局長の川那部恒男さんは管理を始めた当時のことをこのように振り返る。「土地を耕すのに邪魔になる石を一つひとつ手で拾い、サルビアやハボタン、パンジーなどさまざまな花の植栽に挑戦しましたが、うまくいくものはなかなか

見つかりませんでした。そんな中、ようやく見つけたのが菜の花の品種の一つであるカンザキハナナです」。

カンザキハナナは^{たなかみ}大津の田上で漬物などの食用に植えられていた品種で、冬でも咲き、見頃の期間が長い。この種を入手して一から育てた結果、第一なぎさ公園は全国から写真愛好家が集う名所となった。見頃を終えた菜の花はすべて引き起こし、5月になると今度はヒマワリの種をまく。7月中旬から8月下旬まで、色鮮やかな12,000本のヒマワリが咲き乱れる。菜の花もヒマワリも、シルバー人材センターの登録会員による入念な手入れがあつてこそ見事に開花するのだ。

アジサイの名所「芦刈園」では 指定管理者として工夫をこらす

滋賀県は全国的にみても、シルバー人材センターの活動が先進的な地域だ。県内すべての市・町にセンターがあり、高齢者の社会参加に熱心だといえる。なかでも守山市シルバー人材センターは、守山市からの委託事業比率が高く、地域社会の公益や活力と直結した事業を多く手掛けていることが強みだ。

「働き方の融通が利く高齢者が722

人も登録している当センターだからこその業務も多いですね。花壇や樹木の手入れ等を請け負う公園管理はその代表例。数多くの都市公園や河川公園の管理を行うなかで、花の植

栽や手入れのノウハウを蓄積してきました。そこを守山市に買われて、第一なぎさ公園で花を育てる事業を任されたのです。2007年にはもりやま芦刈園の指定管理者にも指定されました」。

西洋や日本のアジサイ、ヤマアジサイなど1万株のアジサイが約20,000平方メートルの敷地に所狭しと植えられた「もりやま芦刈園」。130種にのぼる品種の中には、他ではなかなか鑑賞できないものもあり、6月から7月には延べ2万人が訪れる。この集客数を維持することは想像以上に難しく、同センターでは日々模索を続けている。「年間を通じて丹念な手入れを行うことはもちろん、新しい品種が出るたびに株を植えて景色に変化をつけるなど、常に新たな感動を与える工夫に励んでいます。維持



さまざまな品種のアジサイが見られる「もりやま芦刈園」

するだけではリピーターをつかめませんからね」。

高齢者の社会参加と まちづくりを両立させる

6月中旬に開催する「あじさいフェア」も、来園客の満足度を高め、翌年も再訪してもらうための工夫の一つだ。同センターは、アジサイの鉢植え販売に加え、アジサイの絵手紙などの教室を開いている。観光物産協会や農業団体なども、地元の製品の販売でイベントに協力。これらの努力の賜物か、芦刈園の人気は年を追うごとに高まり、市外からの来園客も増え続けているという。

にぎわいを地域にもたらす集客資源。その維持に必要な日々の取り組みは、行政や民間組織の力だけでは担いきれない。その隙間をシルバー人材センターが埋め、応分の報酬と生きがいを得る。高齢者の社会参加と“まちづくり”を両立させた第一なぎさ公園と芦刈園の事例から学べることは多い。

広大な土地を耕し、種をまいて雑草を除き、害虫を駆除する。シルバー人材センターが手間を惜しまず長期にわたって注いだ丹精が実を結び、今年も第一なぎさ公園に菜の花が咲く季節がめぐってくる。



菜の花の後に種をまき、7月中旬から8月下旬にかけてヒマワリが満開を迎える